

口頭発表 4

「地域モビリティ改善にMMが果たしうる役割を再考する」

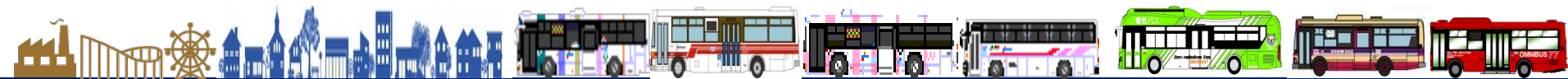
# 地域モビリティ改善の実践からみた 「MM」の再考

2018年07月28日

於 名鉄トヨタホテル

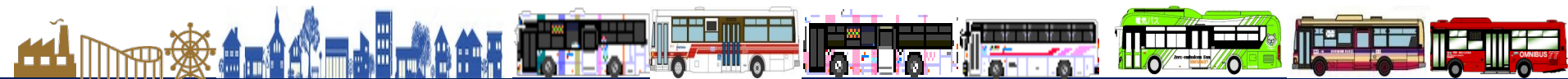
話題提供者 大井 尚司

(大分大学経済学部門／減災・復興デザイン教育研究センター復興デザインユニット)



# 話題提供の構成

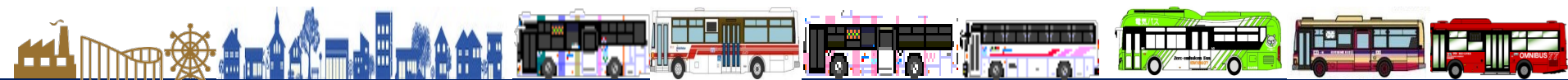
1. 問題意識
2. 私の実践からー「人財」育成中心に
3. いま求められるさまざまな「MM」とは



# 1. 問題意識

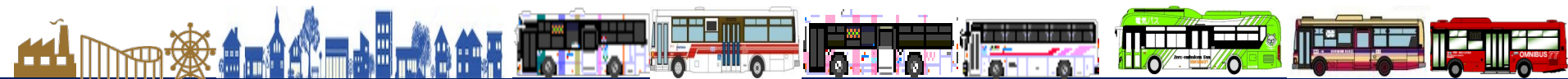
2. 私の実践からー「人財」育成中心に

3. いま求められるさまざまな「MM」とは



# 地域モビリティを取り巻く背景

- 「10年ひと昔」ではなく「3年ひと昔」？  
制度変化（活性化再生法、基本法など）  
業法の度重なる改訂（タクシーなど）  
→ 10年も持たずに改訂繰り返す
  - 誰がついていけているのか？  
行政・役所もついていけない？  
事業者？大学教員？  
感度のいい人だけわかればいいのか？
- => 試行錯誤する各主体、地域モビリティ



# モビリティにとどまらないマネジメント

◎いくつかの地域が経験した「混乱」

ICカード

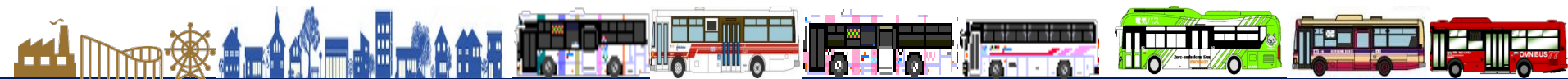
事業者競争（参入、撤退）

減便と廃止

新しいモビリティの形態

地方部における「生活」構成要素の行き詰まり

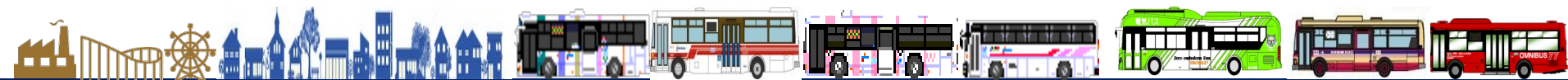
「モビリティ」でないものの「マネジメント」  
が要求されているのでは？



1. 問題意識

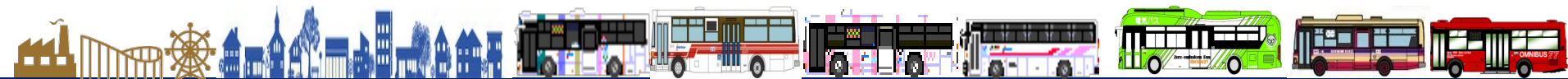
2. 私の実践からー「人財」育成中心  
に

3. いま求められるさまざまな「MM」とは



# 交通の歩みは「人づくり」の歩み

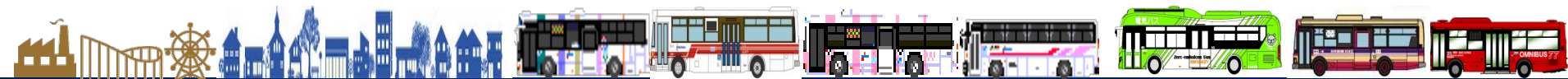
- 2009年着任：手探りで地域モビリティ現場へ  
（九州内、大分県内に徐々に拡大）
  - 自治体の課題認識、現場の課題認識
  - 「人」をつないでモビリティ確保へ  
（国土交通大学校「課題研究」など）
  
- 前職の経験：バス・鉄道の業界の研究
  - 行政・事業者の様々な「不足」を知る
  - 勉強会設置の原動力に（Qサポネット）



# 「人づくり」が生んだ産物

- 事業者社員が地域に勉強会仕掛け
  - ～協議会発足～網計画へ
  - ～事業者内での勉強会発足～Qサポへ参加
- 実験の調査研究～「テマ・ヒマ・オジャマ」～実績に応じた地域密着交通～大臣表彰へ
- 喧嘩・和解（？）～表彰～高・大・自治体連携のプロジェクトへ
- 研修～酒飲み交流～人の縁～協議会参画～網計画へ
- 相談先に関する議論～仲間内への相談～再生塾とのつながり（+師匠の存在、相談）～Qサポネットの発足
- Qサポ発足～コンサル通し切磋琢磨～質向上、受注件数増加～網計画策定増加

=> 「モビリティ」の話だが、「モビリティ」以外のマネジメントの結実ではないか？

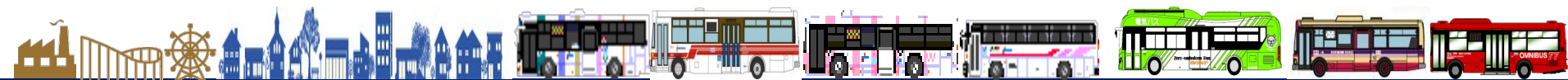




1. 問題意識

2. 私の実践からー「人財」育成中心に

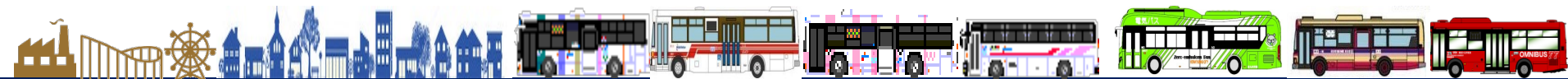
3. いま求められるさまざまな「M  
M」とは



# 「MM」の「M」「M」は？

## ◎最初の「M」

- 「マンパワー（Man）」：  
残念ながら当分移動は「ヒト」が必要  
運転だけではない；管理面の人財も必須
- 「地域資源（Material）」 「マーケット」：  
“地域にあるもの” の理解・活用  
「移動」の枠からの脱皮
- 「マネジメント」
- 「自治体（Municipal Administration）」  
地域がつくるならば「自治体」がしっかりすべき  
事業者（経営陣）の意識変革・マネジメントが不十分



# 「MM」の「M」「M」は？

## ◎後ろの「M」も含めると

- 「マーケット」の「マーケティング・マネジメン  
ト」：

取り巻く市場のマーケティングがお粗末  
市場に向き合い、付き合う姿勢

- 「マッチング」

市場、ニーズ、主体、制度、・・・

=あらゆるもののマッチングシステム欠如

- 「マネジメント」の本質

この辺をあとの議論でぜひ

